

山行報告

★大山・清掃登山(12月1日)

参加者 会員(障害者2名、健常者16名)
会員外(健常者2名)

今日は、毎年恒例の清掃登山。丹沢の大山は、2006年にも清掃登山を実施しているが、山頂に非常にゴミが多かったこともあり、2回目の実施とした。

秦野駅のヤビツ峠行きバスは満員で、増便が出た。くねくね曲がる道を登って、ようやくバスはヤビツ峠に着いた。



冬枯れの登山道を登る

ヤビツ峠で声出しをして登り始める。今日は素晴らしい天気だ。みんなゴミ袋とトングを持って、ゴミを探しながら登る。すでに紅葉は終わり、木々は葉を落としている。今日は比較的暖かく、日差しを浴びるととても暖かい。太陽が反射してまぶしい相模湾や大島が見え、伊豆半島の天城山方面も見えていた。

木々の間からは富士山も見えてきた。子ども

たちは、一所懸命、ゴミを拾っている。たくさん拾うと何かもらえると思って、A君はがんばって拾う。今回は、4人の子どもが参加したが、子どもたちとの登山はとても楽しい。



展望の良いところを見た富士山

途中、見晴らしの良いところがあり、富士山がよく見え、その右手には、南アルプスの聖岳、赤石岳、荒川岳の一部が見えていた。近くには、丹沢の主脈となる塔ノ岳や丹沢山がよく見えていた。さらに右手には、奥多摩の山々も見える。上空には、飛行機雲もできている。足下には、大きく伸びた霜柱がたくさん立っている。



大山山頂にて

ケーブルからの登山道を合流すると山頂は近い。人も大幅に増えてきた。山頂は、さらに

人でごった返している。迷子にならないように、ついてきてくれ〜と大声で言わないと、すぐに分からなくなりそうだ。

お昼を食べて、集合写真を撮った後は、山頂の裏側に回る。関東平野の一番奥に筑波山も見えている。さらに回り込むと、富士山がよく見えるところに出る。丹沢の山々や、奥多摩方面もよく見える。展望の素晴らしいところだ。

ここで、Y君が、「まっかな秋」をみんなで歌おうという。歌詞も配ってみんなで歌う。

来た道を引き返し、途中から表参道の道を下る。A君は、急な階段も快調に下っている。下社では、Kさんからもみじ汁をごちそうになり、とてもハッピーでした。

ここからは女坂を下る。女坂も侮るなかれ。男坂ほどではないが、かなりの急坂だ。後ろと前がかなり開いてしまったが、大山寺で全員合流し、さらに下っていく。



バス停に着き、子どもたちに拾ったゴミを持ってきてもらって写真撮影をする。みんながんばって拾ったね。ものすごい人出のため、バスは5分おきくらいに出ていた。

山から帰った翌々日、Iさんからメールがあり、娘のSちゃんが学校から帰ったら、「ゴミを拾いに行く」といって、公園に行き、スーパーバッグ2袋もゴミを拾ってきたそうです。お母さんから、清掃登山に参加させて良かったですとメールをいただいたが、こちらが見習わないといけないなと思いました。子どもは素晴らしいですね。

記：網干

《参加者の感想》

今日は孫たちを早く起こして、丹沢山塊の大山へ。

ゴミを拾いながら歩く山歩き。子供たちは初体験。

秦野駅で見たことのある人を見つけては名前をいっている。久しぶりに会う人には大きくなったねといわれ、照れくさそう。

子供たちは目がいいのか小さなゴミを見つけては嬉しそうに拾っている。ただひたすら登るだけの山歩きとは違って、時間がゆるやかに流れているように感じる。

だんだん高度を上げるうち富士山が見え出すと、子供たちも「富士山だ〜」といっている。日本一の富士山は子供たちもよくご存知の有名な山なんですね。富士山の横には南アルプスがお目見え。白く光った峰々。美しい。この時期は葉っぱが落ちて、山がよく見える。今の季節のよいところ。

汗をかいても風はひんやり、山歩きには一番適してる時期だな〜とひとりご満悦な気分で歩く。大山の山頂はあふれんばかりの人人人。仲間を見つけるのが大変なくらい。食事後はYのみんなで歌いたいといっていた、大好きな歌「まっかな秋」を歌わせてもらいました。参加者の皆様にも歌ってもらって、Yはさぞかしうれしかったことだろう。

大山からの下山は階段が続き、膝が笑う寸前でした。清掃登山が終わって、子供たちのゴミ袋は汗の結晶がたくさん。とてもよい経験をさせていただきました。

ほめられて、怒られて、なだめられて、いろんな方に声をかけられて、子供たちは幸福感いっぱいかかえて、家に帰りました。いつもながら山仲間アルプの皆さんの温かさには感謝します。リーダーならびに参加者の皆様、ありがとうございました。

記：S.Kさん

コースタイム

ヤビツ峠(10:00)…大山山頂(11:50-12:55)

…下社(14:20-14:35)…大山ケーブルバス停(15:45)

★大峰山・忘年山行(12月15日)

参加者 会員(障害者4名、健常者17名)
会員外(健常者2名)

に出ると、そこが大峰山の山頂だった。あじさいコース側に少し下ると、富士山や江ノ島などがよく見える。

今年の忘年山行は、神奈川県の上野原町にある低山、大峰山で行った。標高は146m。山というより丘に近い。

逗子駅からバスに乗り、旧役場前で下車。少し歩いたところにあった駐車場で、自己紹介と班分けを行う。3人の子どもたちは今日も元気だ。

旧役場前からのコースはツツジコースになる。案内板にしたがって山道へと入っていく。子どもたちはどんどん先に行きたがるが、速く歩きすぎると山から下りてからの忘年会まで時間が余りすぎる。子どもたちにブレーキをかけながら、ゆっくりと登る。



大峰山山頂にて

山頂でお昼を食べた後は、歌が大好きなY君が持ってきた歌詞カードを基に、みんなで歌を歌う。今回はピリブだった。Aけいこの「夢は夜ひらく」も！

集合写真を撮った後は、山頂を後にして、真名瀬(しんなせ)に向かう。子どもたちは早く海に入りたいと急ぐ。ブレーキをかけながら、できるだけゆっくり歩く。長者ヶ崎方面の海岸線は海の青さと相まって、とても美しい。S君は、沖縄みたいだという。



大峰山山頂で歌が始まった

上に上がると、相模湾と木々の向こうに富士山が見えてくる。今日は、素晴らしい天気だ。相模湾の向こうには丹沢の山々も見える。気温も予報ほど寒くなく、風がないため、暖かく感じる。東屋といくつかのテーブルがあるところ



長者ヶ崎方面の海岸

急な階段を下って行くと、熊野神社に着いた。車道に出ると、真名瀬のバス停はすぐそこだ。しかし、その前に子どもたち待望の波打ち際での遊びが必要だ。ズボン濡らさないように、

パンツになって遊んでいる。冬の海も子どもたちには冷たくないようだ。元気いっぱい遊んだ後は、バスに乗って逗子駅に向かう。

逗子駅で子どもたちやまっすぐ帰る人たちを見送った後は、忘年会だけ参加の人たちと合流して、地元の「はら田」という店で、今年一年を振り返って忘年会を行う。朝取りのシラスの刺身がおいしかった。

今年も1年、無事に山行などを終えることができたことは、ひとえにみなさまのご協力のおかげです。ありがとうございました。

記：網干



《参加者の感想》

今日は今年最後のアルプの山行、三浦半島の大峰山へ。

逗子駅につくとわたしよりも改札を出て、兄貴的な存在の翔太郎くんを探している。会えてうれそうにしている孫の笑顔を見てわたしもうれしくなる。大峰山も3人で仲良く小さな

★大野山(1月11日)

参加者 会員(障害者3名、健常者8名)

2014年最初の山は、丹沢の南西端にある大野山だ。新年最初の山は富士山の見える山が良いという意見を取り入れて、大野山を選択した。

発見を重ねながら歩いている。昼食タイムも気はそぞろで集中できないであちこちうろろう。ほとんど食べていない。うれしかったんだね。みんなに会えて。

またここでも歌を歌わせてもらう。みんなと歌いたいといっていたピリブ。山からは海が見えて、富士山も遠く相模湾の上にしっかりと見えていた。そこに集った仲間が笑っている。この上ない幸せってこういうことかなと思う。

下山してすぐそこにある浜辺でズボンを脱いでパンツスタイルで海で遊びだす。12月だというのに寒さ知らずの子どもたち。充実した一日をすごさせてもらった。Kさんに孫たちを託し、わたしは忘年会場へ。料理は想像以上で、おかみさんもノリのいい人で楽しい時間を演出していただいた。初めて訪れたお店なのに、これだけのってくれるお店もない。そのようにアルプの人たちが動かしているのかもしれない。

今年もよく山にいかせてもらいました。楽しい一年、ありがとうございました。来年もまた大きく成長していくであろう孫たちともどもよろしく願います。 記：S.Kさん

コースタイム

旧役場前(11:50)…大峰山(12:20-13:15)…真名瀬バス停(13:45)

今朝はこの冬一番の冷え込みだったのではないだろうか。谷峨駅の広場の水たまりの水も凍っていた。

駅の広場で声出しをして歩き始める。酒匂川(さかわがわ)にかかる吊り橋を渡る。橋の欄干の影そのままに霜が残っている。時間と共に霜は消えていくのだが、まだ日が当たりはじめて間もないのだろう。自然の造形はおもしろい。

車道をジグザグに上っていくと、後ろに富士

山が見えてきた。途中で上着を脱ぎ、さらに登っていく。落ち葉や緑の葉に付いた霜がきれいだった。写真を撮りながら登る。

立派なトイレのある休憩所で休憩する。子どもたちは雪合戦が始まった。



葉脈に沿って霜が伸びる

休憩所からさらに登る。小さな氷の中にできた模様が何とも言えず美しい。振り返ると、愛鷹山や箱根の山々が見えてきた。その左には相模湾も見えている。前に行くYさんとMさんが、ジョウビタキがいるという。行ってみると、雌のジョウビタキがいた。



自然は芸術家

山頂の牧場の一角に出ると見晴らしがとても良くなる。富士山は少し雲がかかってきたが、真っ白な姿を見せている。大人も子どもも雪合戦を楽しみながら登る。前に行くKちゃんが立ち止まっているところに行くと、ちょうどスカイツリーと同じ標高634mの地点だという標識があった。木彫りのウサギの標識、まだ作ったばかりだろうね。

山頂までまだ10分ほどあるが、ちょうど良い東屋があったので、そこで昼食タイムとする。

ここは富士山の展望が素晴らしい。昼食のあとは、子どもたちと雪だるま作りをする。Kちゃんが一所懸命、木を探してきて、雪だるまに手をつけていた。



富士を背に登る

山頂の牧場に着くと、丹沢の山々が見えてくる。桧洞丸や大室山が見え、蛭ヶ岳は山頂を雲に隠していたようだ。Y君が雪投げに夢中になっているので、山頂は写真だけ撮って、早々にあとにする。山頂の一角では、雪で馬のモニュメントを作っている女の子がいた。狐のようにも見えたけど、きれいに形を作っていた。

下りは、深沢三差路を通る車道を歩く。先頭は、ぐんぐん下り、駅で待っていた。この車道歩きは2時間ほど続き、さすがに足に効える。私は、2日後に膝の裏側にちょっと強い痛みが出ってしまった。

山北駅の近くでは、道祖神の祭りがあったようで、祭り囃子が聞こえてきた。たき火で丸い餅をつなげて焼いていて、通りすがりの私たちにも振る舞ってくださった。ありがとうございました。



大野山山頂にて

今年も、安全に、楽しく登山を続けましょ
う！

記：網干



《参加者の感想》

今年初の山行は富士山が美しいといわれる大野山へいきました。孫たちには雪があるからやめる？寒いらしいよ、やめる？といっても二人は「いいや、いく」ときかない。山頂でたこをあげるんだといって、カイトをもってまだ薄暗い中、電車に乗り込みました。

大野山に行ってみれば雪もサラサラ雪ですってんころりんすることはありませんでした。東屋で昼食タイム。昨夜しこんできた、ポットにいれてきたあたたかなおでんを楽しみました。二人は雪に大喜びでAリーダーと雪合戦を楽しんでいる。わたしまで参戦することになってしまうことになり、汗をかいてしまいました。リーダーとYさんが作ってくれた雪だるま。子供たちはそれもまた大喜び。雪遊びに夢中でたこあげすることはなかったけどいい思い出ができました。

2時間ほど歩けば山頂という、大野山。ひだ

★権現山(1月25日)

参加者 会員(障害者3名、健常者7名)

今日は、3月下旬並みの暖かさになる予報だった。しかも快晴の予報だったが、予報より悪く、ずっと曇っていた。それでも、展望に恵ま

まりがポカポカ暖かくて、雪もさくさくで、幸せな気分を満喫できた山行でした。山北駅までの車道歩きが単調で足に疲れがでてきて、孫たちはしきりに足が痛い、駅はまだ？と聞いてくる。ストックを出して歩かせたり、歌を歌わせたり、いろんな手立てでなんとか駅へと向かう。



麓の街中では祭太鼓が響いている。子供たちの疲れた顔がぱっと明るくなる。綺麗な色のお餅を焼いている。子供たちはそれが欲しいらしい。こころよく、大人たちもいただき、子供たちはすっかり元気になっていた。

今日はいろんな場面に出会え、丸々一日おもしろい日でした。家から出るといろんな発見ができます。今年もどんな場面に出会えるか、楽しみです。 記：S.Kさん

コースタイム

谷峨駅(9:55)…トイレのある休憩所(10:50-11:10)…東屋(12:05-12:55)…大野山(13:20-13:25)…大野山登山口(15:05)…山北駅(15:55)

れ、登っている時は薄着にならないと暑くなる状態だった。

上野原から坪山方面に向かうバスに乗り、初戸(はど)で下車する。いつもおなじみのメンバーだが、一応声出しをして出発する。指導標にしたがって、民家の庭のようなところを歩いて登山道に入る。

すぐにジグザグの急登になる。植林帯や雑木林を交互に通り返け、登っていく。こちらは北側斜面のため、次第に雪が多くなる。しばらく登っていくと、木々の間から雪の多そうな山が見えてくる。奥秩父方面の山だった。



雪の積もる稜線を行く

雪の多い斜面をトラバース気味に慎重に登る。傾斜が落ちてきて歩きやすくなる。最後に、植林帯のやや急坂を登り切ると、稜線の雨降山に到着した。曇り空なので、どんよりしているが富士山が見える。権現山まで、まだ40分以上かかるので、ここで昼食タイムとする。冬場はカップラーメンが温かくておいしい。ふかした芋などを振る舞っていただき、おいしく食べることができた。

雨降山からの稜線はしばらく雪のない歩きやすい登山道を進む。Kさんが見てきたネットでの報告によると、稜線には雪がないそう。しかし、しばらく歩くと雪がふえてきた。



コゲラ

枯れ枝にぶら下がったきれいな緑はウスタビガの繭だ。緑の少ない時期なので、とても映える。木の枝をコゲラやコガラ、シジュウカラ、エナガなどが飛び交っている。

大ムレ神社への階段を上ると、山頂直下の最後の急登が始まる。雪のところも注意が必要だ

が、土のところもとても滑りやすかった。傾斜が落ちると、木々が少なくなって山頂に到着する。山頂からは、富士山、三ツ峠、御正体山、手前に扇山、百蔵山、北側に目を向けると、近くに三頭山がどんと構え、その左手に雲取山が見え、そこから左手に奥秩父の稜線（飛龍山から国師ヶ岳まで）が連なる。三頭山の東側には御前山、大岳山、そして生藤山や高尾山方面も見えていた。大菩薩嶺から小金沢連嶺は、木の陰で、ちょっと見にくかった。



権現山山頂にて

山頂からの下りもなかなか急坂だ。雪はあまりなかったが、もしものことを考えて、山頂で軽アイゼンを付けて下山した。軽アイゼンの爪には落ち葉がたくさん刺さっていた。いくつかのアップダウンを繰り返して、ようやく浅川峠に到着する。少しでも振り返ると、権現山から下ってきた尾根がよく見える。左側が切れた細い登山道を過ぎると、そこからは林道だった。雪はまだあるが、みんな軽アイゼンを外して歩いて行く。



権現山から見た飛龍山、雲取山

浅川で、軽アイゼンや登山靴の泥を落として、

バスに乗り込んだ。

記：網干

初戸(9:15)…雨降山(11:50-12:20)…権現山(13:25-13:40)…浅川峠(14:45-14:55)…浅川(15:40)

コースタイム

※房州アルプス、大仁田山は雪の影響で中止としました。

講習会報告

★岩登り技術講習会（日和田山）（12月8日）

参加者 会員(健常者9名)

会員外(健常者1名)

今回は、会員外で参加したKSさんを含めて10人という上限の人数で実施することとなった。

みなさん、登山技術を付けて、これからのサポート登山に生かそうと、素晴らしい意気込みを感じる。

まずは、ロープの結び方を確認する。電車の中でも実際に結んで覚えたようで、8の字結びやマスト結びなど、すぐに覚えてもらえた。

つづいて、女岩の南面で足慣らしを行う。クライミングシューズで登る人、登山靴で登る人、アイゼンを付けて登る人、それぞれ各自の判断で登っている。SさんやKWさんなど、はじめて確保も体験した。



以前登れなかったところにチャレンジさせて欲しいというNさんの意向を受け、昼食後は

男岩西面のアンダーリングフェース（V級）に行く。

みなさん、必死でチャレンジしていたが、登れたのは、私とKSさんだけだった。早めに帰る必要のあったKSさんにはバルジ右側のフェースも登ってもらった。

いつもより遅い時間の16時15分頃、岩場から立ち去った。最後、すっきり登って気持ちよく終えたかったという人もいたが、厳しい壁を体験することで自分の力が分かり、次への目標となるかなと思います。



1cmのスタンス（足場）にしっかりと立てるバランス感覚を身につけて、またチャレンジしましょう。

記：網干

《参加者の感想》

今日は冬らしく透き通った空の下で岩トレに意気揚々と参加しました。わたしはアイゼンを装着してのトレーニングをと思ったが、アイゼンで登っている人がリーダーからゲキを飛ばされているのを見て、これは大変と、アイゼンはさっさとはずし、登山靴でのトレーニングに変更してしまいました。それでもほんの少し

のホールドを見つけること、そこに靴を岩に垂直に置いて、つまさきで立つ、それはたやすいことではないのですが、昨年よりもできてる感じがしました。

午後になると、温度がぐんと下がってダウンを着込み、順番を待つ。気温は6度。岩の影は寒い。午後の岩は難易度も高く、垂直、いやいやハング気味かも。無理だろう。参加者がそれぞれ挑戦するもなかなか上にたどり着けないのに、今日初めてアルプの岩トレに参加したKさんは2度もクリアしている。なにが違うのでしょうか。

わたしの番がきて、「登ってみせる」なんて思ったのも束の間。岩に触った手がじんじんしびれてきて。指先に力が入らない。というわけで、最短でおろしてもらおう。恥ずかしいがこれがわたしの実力。そんなわたしの敗退を尻目に他のグループはアイゼンですいすい登っている。それを呆然と見上げるわたし。

ザイルの回収。ザイルの支点がどうなっているのか、見てくる。ザイルは何本も支点についてい



た。こんなにたくさん・・・すごい。わたしたちが昼食を食べている間に、リーダーはせっせとこれを作っていたわけですね。わたしたちの命を守る支点づくり。この目でみてそうたやすくもないのもよくわかりました。ザイルの重さもわたしたちの命の重さなのかもしれない。それをしっかりと携えてくれて、守ってくれているリーダーには感謝の言葉しかない。ありがとうございました。次はもっともっと上達できるよう、頑張ります。 記：S.Kさん

ハイキング報告

★第35回ふれあいハイキング（片瀬古道）（2月2日）

参加者 会員(障害者4名、健常者14名)

た石碑の前で記念写真を撮る。

会員外(健常者2名)

今回は、江ノ島から大山詣での帰りに弁財天に立ち寄り人たちが利用したという片瀬古道と神光寺古墳のハイキングとして計画しようとしたが、せっかく江ノ島まで行くのなら、江ノ島にも立ち寄り、江ノ電にも乗ろうと思って、企画した。

ちょっと古風な趣のある江ノ電で藤沢から江ノ島に向かう。江ノ島の駅前で自己紹介をして出発する。江ノ島につながる橋の手前にあっ



相模湾にはヨットがいくつも浮かんでいた。商店街を抜け、鳥居をくぐる。さらに、茅の輪をくぐって、罪穢れを祓い清めてお参りするよう書かれているが、茅の輪をくぐったぐらいでは、これまでの悪行の数々が清まるわけがないというご意見が。確かにそうかもしれない。

ここで戻ろうと思っていたが、せっかく来たのだからもっと奥まで行こうと言うことになり、岩壁の見えるところまで行く。広場には、すでに河津桜が咲き始めていた。

鳥居まで戻った頃、雨がぽつぽつ降り始めた。このあとは、弱い雨が降ったり止んだりの天気となった。



古道には石仏や古い道標がある

来た道を引き返し、龍口寺に行く。ここは、鎌倉時代に龍ノ口刑場があり、日蓮が処刑されそうになったところらしい。ここから、駅前の道に戻って、古道に行くことになる。常立寺を過ぎると道が分かりにくく、とりあえず諏訪神社の脇を通るので、諏訪神社を探すことになる。ガソリンスタンドの方に聞いて教えてもらったが、今回は、古道を歩くことが目的なので、大通りを行って良いものかどうか分からなかったが、諏訪神社のところから古道になっているので、間違いなかった。

弁財天の道標や庚申供養塔が所々にある。江戸時代の人たちは、藤沢宿からこの道標を目印に江ノ島に向かったのだろう。

大通りを過ぎると、馬喰橋(うまくらいばし)に着く。何のことはない橋だが、この橋も伝説の残る橋のようだ。古道の面影はこの付近まで、ミネベアの社宅を右に曲がって新林公園に着く。みんなおなかをすかせていて、やっと食べ物にありついたという顔をしている。とにかく、空腹を満たして満足した。

昼食後は、公園内のバードウォッチングのできる池に向かう。池に着いた時、カワセミが飛

んで行くのが見えた。その後は、見えるという人もいたが、残念ながら探せなかった。さらに古民家の方に歩いていると、タイワンリスが何匹も出てきた。本来ここにいるべき動物でないで、生態系を乱すことになるが、すっかり我が物顔でえさを探していた。古民家では、管理している方からいろいろと教えていただいた。



古民家のいろりの部屋

最後は、神光寺古墳群だ。古墳を見てコーフンしないように、注意しなければならない。ここは、珍しく、横穴式の古墳だった。洞窟のような古墳の中に何かあるのか確かめるため、最年長のNさんも3メートルほど登って試みた。まだまだ若いですね。



神光寺古墳にて

古墳を見たあとは、大通りを歩いて藤沢駅に向かった。

記：網干

コースタイム等

江ノ島駅(9:25)…江ノ島(9:50-10:25)…龍口寺(11:00)…新林公園(12:15-13:30)…神光寺古墳(14:00-14:10)…藤沢駅(14:30)

個人山行報告

★入笠山(12月22日～23日)

参加者 会員(障害者2名、健常者8名)
会員外(健常者1名)

☆12月22日

今回は、個人山行で入笠山に登り、クリスマスと星空、ご来光を楽しむことを目的に実施した。当初は、アイソン彗星を見ることを目的に、法人の活動のない日を選んだのだが、アイソン彗星が消滅してしまい、最大の目的がなくなってしまった。しかし、誰からも中止にしようという意見が出なかったため、予定通り実施した。

1日目は素晴らしい天気にも恵まれた。中央線の車窓から、南アルプスがよく見えていた。各駅停車の電車に乗って、富士見駅で下車する。タクシーで Gondola 乗り場に行き、Gondola でスキー場の上に行く。

ここから雪道を歩く。積雪は30センチほど。新雪の粉雪で、歩くと、キュッキュッと音がする。今は雪原となっている入笠湿原を横断して、山彦荘の前に出る。ここから夏の車道を歩いてマナスル山荘へ。Gondola 乗り場から30分ほどだ。

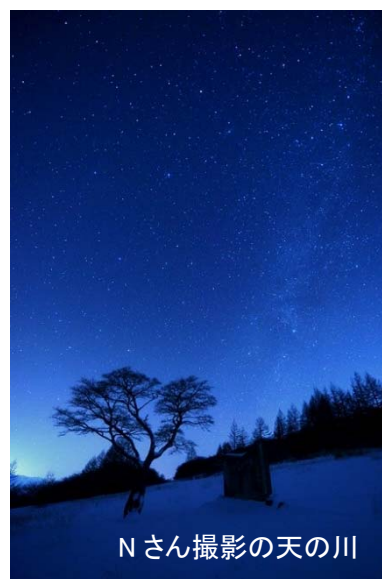


Fさんがマナスル山荘でクリスマスを祝うケーキを準備してくれた

マナスル山荘は、私たちだけの貸し切り状態。気兼ねなく楽しめるのがありがたい。Fさんが

クリスマス用のケーキを作ってきてくれた。最後の仕上げに生クリームをケーキの上にかけて、苺を並べる。手をかけていただいたことに感謝だ。ローソクに火を灯してクリスマスパーティーの始まりだ。いろいろな歌も出て盛り上がっていく。

夜は、長時間、星空の撮影をしているNさんのところに行って、満天の星空を眺める。天頂には天の川が横たわる。オレンジ色に光る木星。オリオン座、双子座、カシオペア、牡牛座、昴などがよく分かる。アンドロメダ銀河は双眼鏡で探したが見つけれなかった。



☆12月23日

今日は、山頂で星空と日の出を迎えるため、5時に山荘を出発する。山頂に着くと、すでに東の空はうっすらと白んでいた。ラブジョイ彗星は双眼鏡で探したが見つからなかった。

風もあり、寒い山頂に1時間以上いるため、今回はツェルトを5張りほど分担して持ってきた。ツェルトをかぶって風を遮るだけで体感温度がかなり違うことを実感してもらえたようだ。

日の出を待つ間、コンロとコッヘルを使ってホットワインを作ることにしていたが、なかなか火が付かない。寒さと風がいたずらしている

ようだ。それでも、何とかコンロに火をつけ、ホットワインを作ることができた。私は、時々席を外して、夜景の写真などを撮る。



寒い中で待っていると、東の空から太陽が顔を出してきた。右手には富士山が見え、振り返ると北アルプスがモルゲンロートに染まっている。槍穂高連峰や鹿島槍などの後立山連峰が長い連なりを見せてくれる。北アルプスの左には、乗鞍岳が続き、続いて御岳、中央アルプスと続く。南には、甲斐駒、仙丈岳、鋸岳、間ノ岳の南アルプス北部の山が見える。東には八ヶ岳と奥秩父の金峰山などが見える。360度の大展望だ。



集合写真を撮って、マナスル山荘に戻る。木に積もった雪がさらさらと舞い、そこに朝日が当たって、ダイヤモンドダストのように見える。冬ならではの美しい光景だ。

登りと別のコースを取ったみんなと合流して下ると、すぐにマナスル山荘に到着した。山荘で、朝食を取り、おばさんに挨拶をして下山にかかる。Nさんは、装備もなく、雪山どころ

か山自体、ほとんど経験がないので、ゴンドラを使って下ってもらうことにする。



今回他のメンバーは、ゴンドラを使わず、車道を通して、大阿原湿原、沢入登山口、入笠会館経由で富士見駅まで歩く予定だ。

冬の車道は、動物たちの天国だ。タヌキやウサギ、シカの足跡が雪の上に縦横無尽に付いている。中でも千鳥足のタヌキの足跡には笑った。

予定よりかなり遅れていたため、沢入登山口に着いたところで、タクシーを呼ぶことにした。なかなかタクシーが上がってこないで、途中まで下ることにする。所々凍っているのに、スリップしないように注意しながら下る。ようやくタクシーが見えた。1台はしっかりとチェーンをつけてすぐ出発できたが、もう1台はまだチェーンが付いていない。

とにかく、どちらもすぐに出発できると思っていたので、先頭のタクシーは富士見駅に向かう。駅に着くと、もう一台のタクシーに乗っているはずのSさんから電話が入り、まだ出発できていないとのこと。しかも、タクシーがスリップして動くことができないらしい。まあ、タクシー会社が何とかしてくれると思っていたので、運転手に対応してもらうことにしたが、結局は運転できず、先頭グループを乗せたタクシーがもう一度迎えに行き、タクシー代はもらえないと言われてもらえた。立ち往生したタクシーは、タクシー会社の社長が救助に行ったらしい。

最後にとんだハプニングがありましたが、全員無事に冬の入笠山を楽しめました。

記：網干



《参加者の感想》

今日はあわい香りのすすらんで有名な雪の入笠山へでかけました。スキー客に混ざってゴンドラにのって、緩やかな道を少し歩いて、マナスル山荘へ。Fさんが用意してくれたスポンジケーキに生クリーム、苺をのせてクリスマスケーキの出来上がり。昨年に続き、今年も山でクリスマスイベントを仲間とできたことがうれしい。夕食はここは山小屋なの？と思うほど豪華でした。

夜は星を見に、あるだけの衣服をまとい、湿原に飛び出してみました。はじめは見えなかった天の川もだんだん目が慣れてきて川になってきました。あれが木星、と教えてくれたきらきら輝く惑星を双眼鏡で覗いてみたら、オレンジ色に光っていて、すごく綺麗でした。上ばかり見ていたら首が疲れてきて、寝そべて見たかったけど雪原に寝転ぶわけにはいかない。

翌日は朝早起きして、まだ暗闇の中を出発。下弦の月が出ていて、もう天の川は見られず、

その他事業報告

★創立10周年記念パーティー開催

2005年4月19日に産声を上げてから10年が経ち、今回記念パーティーを2月23日にSANBANCHO CAFÉ(東京都千代田区)で、Sさん、Nさん、KMさん、KSさんの実行委員の取りまとめで開催しました。

昨夜意を決して外に出てよかったと思いました。入笠山までの道のりは厳しくはないが、山頂直下でやや足をとられて、息があがってしまいました。山頂につくと風が強く、唯一露出している顔が冷たくなっていく。今回の課題である、ツエルトの効果を実体験。薄い生地だがそれを纏うと違いがよくわかる。ツエルトをまといながらコーヒーを飲んで日の出を待つ。

東の山がオレンジ色に染まってくる、ピカッと日が顔をだす。今日の始まりだ。ツエルトの隙間からのぞきながらひとりうるっときているわたし。北アルプスもよく見えて、やはり陽に照らされてそれはもう別世界の領域でした。こんな楽しんでこんな景色が見られるなんて、なんかすごく贅沢な感じがしました。次は夏にきて、山頂で寝転んで星がみたい、そう思いました。星座の話がたくさんしてくれたNさん、ありがとうございました。Nさんのおかげで星座の話が身近になり、興味が湧いてきました。今度はどこの山で天の川が見られるかな？来年も楽しみです。

記：S.Kさん

コースタイム等

- 12/22 富士見パノラマスキー場ゴンドラ (15:15)…マナスル山荘(15:50)
- 12/23 マナスル山荘(5:00)…入笠山(5:40-7:30)…マナスル山荘(7:50-9:30)…大阿原湿原(11:00-11:20)…沢入登山口(12:50)

当日は、六つ星山の会から創立者のMTさんとベテラン会員のTMさん、今年の視覚障害者全国交流登山の寄付金を富士ゼロックス端数クラブに申請していただいたYMさん、10年間、毎年寄付をしていただいたKTさん

をご招待し、旧会員のSGさん、SWさん、INさん、KGさんをお迎えして、正会員33名、賛助員2名の総勢43名で、盛大に行われました。



10年の歩みを理事長から簡単に説明し、10年間の登山やハイキング、子ども山登り教室で撮影した写真をスライドショーで見てくださいました。NM氏の電撃インタビューのあと、ギターを弾いてくれたKRさんが登場する

《パーティー参加者》

招待者：MT(六つ星山の会)、TM(六つ星山の会)、YM(富士ゼロックス端数倶楽部の寄付をしてくださった)、KT(六つ星山の会・10年間継続して寄付をしてくださった)

旧会員：SG、SW、IN、KG

会員：33名

賛助員：2名

☆臨時総会開催

1月12日(土)に次年度の事業計画を決める臨時総会を開催しました。

登山等の計画については、議案通りとなりました。

グレードの高い山には参加できない人が多いので、グレードA~Bの山を増やした方がよいのではないかという意見が出たが、Aの山は

と、一気に盛り上がり、かつて大学生が学生の宴会並かそれ以上だと言われた、歌あり踊りありの山仲間アルプらしいパーティーとなりました。



これからは、次を担う人材の育成が大きな課題になりますが、今まで通りの運営も継続したいと思います。みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

非常に少なく、Bの山も魅力のある山は非常に少ない。良い山があったら今後計画したいので、提案していただくこととした。

また、歩くスピードが早いという意見があった。なかなか全員に合うペースを作るのは難しいが、できるだけ配慮することとした。

詳細は、臨時総会議事録を参照ください。

▲第14回視覚障害者全国交流登山東日本大会の準備を進めています

全国の団体（六つ星山の会、新潟あいゆー山の会、富山三つ星山の会、京都山の子会、HC かざぐるま、山ネット、岡山こまくさHC、広島歩く会「友遊」、しまね四季の学び舎、山口ささゆり会、高知ポレポレ山楽会、HC かめ）から参加予定人数を連絡いただき、当法人を含めて200人を超える人数になりそうです。

六つ星山の会から3人の方が実行委員に加わってくださり、1月12日の実行委員会に参

加していただきました。

現在、現地の交通手段の見積を取り寄せたり、予算編成をしたりしています。3月末には実施要項を作り、各会に配布する予定で進めています。大変な作業量になりますが、みんな一丸となってがんばっています。

山仲間アルプの参加予定人数は、現在までのところ31人です。参加できる方は、これからでも大丈夫ですので、申し出ください。

各種連絡事項

△1%支援制度に2014年度も支援金の申請をします

2013年度も「自然と親しむ子ども山登り教室」のスタッフの交通費などの支援金を申請

します。ご協力いただけますよう、よろしくお願いいたします。

●活動紹介映写会は質素に実施します

毎年恒例となった活動紹介映写会ですが、今年度は、創立10周年記念パーティーや第14回視覚障害者全国交流登山の準備などで、非常に忙しく、ビデオを編集している時間が取れなかったため、ポスターを作って掲示するなどの一般募集は行わず、創立10周年記念パーティ

ーで見ていただいたスライドショーを中心に、原則会員だけで行います。

3月29日(土) 13:00~15:30に八千代市総合生涯学習プラザ 多目的ホールで実施しますので、ぜひお越しください。

会員情報

◎新入会員のお知らせ

12月以降、下記の方が新しく入会されましたので、よろしくお願い致します。(敬称略)
正会員

1名

編集後記

・理事長のつぶやき

日頃の忙しさにかまけて、なかなか実施できなかった創立10周年記念パーティーをようやく実施することができました。これもひとえに、実行委員のみなさまのおかげです。企画立

案から事前準備、当日の切り盛り、事後の会計処理まで本当にありがとうございました。

これまでの山仲間アルプの活動に当たっては、多くの方から寄付金をいただけてきました。

寄付金は、お歳暮やお中元などの個人的な贈り物と違って、物でお返ししたりするのではなく、有効に活用して成果を上げることが、お礼になります。寄付金を使って活動したことで、今まで山に登れなかった人が登れるようになったり、障害者と接したことがない子どもが障害を持つ人の役に立とうと思うようになったり、またどんないやなことや苦しいことがあっても投げ出さずに活動を継続するということが一番のお礼です。

・次回発行予定は、6月です。

「継続は力なり」と言いますが、やはり支援なしにはどこかで挫折する可能性が高くなり、継続が難しくなります。山仲間アルプの活動をここまで継続してこられたのは、金銭面だけではなく、精神面や活動面で多くの方に協力していただいたおかげです。その協力を有効活用するのが代表者の役割でもあります。

継続することは大変なことです。みんなで自分ができることを出し合い、協力し合って次の20年に向かって進んでいきましょう。

参加申し込みやお問い合わせは事務局まで
〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208
NPO 法人山仲間アルプ事務局 網干 勝
TEL.047-484-8308

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。自然は、誰に対しても平等だよ！！

